



2009年5月15日、井上研究室が日本船舶海洋工学会関西支部長賞を受賞しました。受賞者は、井上欣三、白井英夫、世良亘

井上研究室では、阪神淡路大震災で損害を被った旧の操船シミュレータの代替え機として、現在のフルミッション操船シミュレータ（日本海洋科学製）が震災の翌年に建設導入されました。

以来15年間、井上先生を中心に、施設装備のアップグレード改善と教育研究への応用利用技術の開発に努力が注がれてきました。

今回、その努力が認められ、特に技術開発成果をもとにした教育活動、研究活動、社会活動への長年にわたる継続的貢献に対し、日本船舶海洋工学会関西支部長賞の受賞となったものです。

神戸学生新聞 2009年(平成21年)6月20日 第275号 [2]

2年連続の受賞 操船レシミュの活動評価

船舶海洋工学会
関西支部長賞



船舶海洋工学会関西支部長賞を受賞した神戸大学工学部船舶海洋工学科の学生が、操船レシミュの活動評価の結果、2年連続で受賞した。この賞は、船舶の操縦・管理に関する知識・技能の習得に貢献した学生を表彰するものである。受賞した学生は、操船レシミュの活動を通じて、船舶の操縦・管理に関する知識・技能を習得し、船舶の安全な航行に貢献したと評価された。

操船レシミュとは、船舶の操縦・管理を模擬した訓練装置のことである。この装置を用いて、船舶の操縦・管理に関する知識・技能を習得し、船舶の安全な航行に貢献することができる。操船レシミュの活動は、船舶の操縦・管理に関する知識・技能の習得に大きく貢献している。操船レシミュの活動を通じて、船舶の操縦・管理に関する知識・技能を習得し、船舶の安全な航行に貢献することができる。操船レシミュの活動は、船舶の操縦・管理に関する知識・技能の習得に大きく貢献している。

操船レシミュの活動を通じて、船舶の操縦・管理に関する知識・技能を習得し、船舶の安全な航行に貢献することができる。操船レシミュの活動は、船舶の操縦・管理に関する知識・技能の習得に大きく貢献している。操船レシミュの活動を通じて、船舶の操縦・管理に関する知識・技能を習得し、船舶の安全な航行に貢献することができる。操船レシミュの活動は、船舶の操縦・管理に関する知識・技能の習得に大きく貢献している。